

まちづくり新聞 36 号

～バリアフリーアピール～

☆アピールとは☆

地域の皆さんや行政が参加して、より良いまちづくりへの想いと、取材した店舗や施設のアピールを込めたものです。

記号のご案内



自動ドア



エレベーター



車いす可能
エレベーター



エスカレーター



車いす可能
エスカレーター



駐車場



スロープ



段差



WC
だれでもトイレ



手すり付き男子トイレ

地域生活支援センター ささら



☆内 容☆ 生活介護

・ 住 所 〒111-0023 東京都台東区
橋場 1-16-17

・ 電 話 03-3875-1470

・ F A X 03-6802-3022

・ ホームページ

<http://sasara11617.iinaa.net/>

・ アクセス 都バス「浅草病院前」下車徒歩 3 分

台東区循環バス 北めぐりん 7 番「橋場老人福祉会館西」下車徒歩 1 分

台東区循環バス ぐるーりめぐりん 14 番「浅草病院前」下車徒歩 3 分



今回案内して下さった、
ささらスタッフの杉田さんと

特定非営利活動法人

地域生活支援センター

ささらさんに伺いました。

平成21年5月1日台東区橋場にオープンした、特定非営利活動法人・地域生活支援センターささら【生活介護】通所施設を訪問しました。

浅草病院から一つ目の横断歩道を渡り、左に曲がるとすぐ。「福寿院」というお寺の右隣にある建物の1階部分を使用しています。

利用者の年齢層は、50代。(20代、67歳の方もいます)特に50代以上の利用者の方が多く、過去に通っていた、通所施設と馴染めず、自宅に引きこもりになりがちの方が多かったそうです。そんな方々がささらを知り、運動不足解消や、日々の生活リズムを整えるため通い、毎日来る人や、週1日来る人がいらっしゃるそうです。その中で利用者同士のコミュニケーションも生まれてくるそうです。

9:30分までに通所します。自力通所の方と、送迎車で通所の方がいます。その後～フリータイム～ラジオ体操。

調理 「ささら de ランチ」と題して、月3回、協力して昼食を作っています。

散歩 隅田公園 汐入公園 東白髭公園などの定番コース

その他その日の天候や体調、希望で、商店街や図書館へも！

スポーツ 風船バレー 吹き矢 (今はコロナで中止中) フライングディスク ボッチャ ボウリングなど楽しみながら体を動かしています。

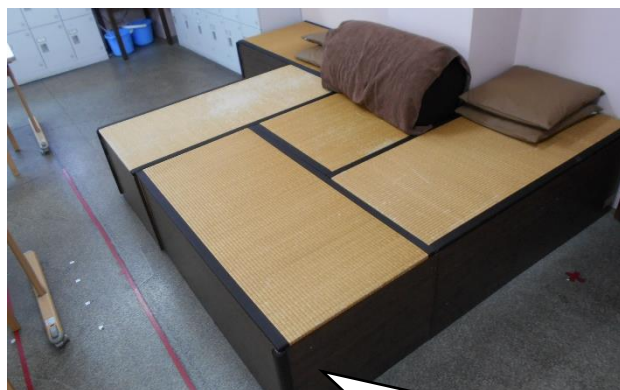
園芸 簡単な野菜も育てます。毎年「ササラオリジナルみそ」「梅ジュース」も作ります。

創作・軽作業 アクセサリーの組み立て封入作業など 創作は習字と布はり絵を。

イベント ささらパーティ、外食、外出、出前デーなど。外出はカラオケ、ショッピングへも。(一部の活動は感染拡大防止で現在中止中です。) ささらの送迎サービスはシエンタ、ノアの2台で行っています。

さあ、この「ささら」はもともと、ヘルパー会社が発足した生活介護施設です。

台東区の東方面にあり、傍に隅田川が流れ、のんびり、ゆったり笑顔にあふれたささらは、今日も絶好調！ 介助スタッフは、ベテランのヘルパーさんばかりで安心です。



施設内風景です。一部畳スペースもあり、ここで創作・軽作業やスポーツ他の活動等されているそうです。

「ささらの由来」

「ささら」は 645 年の大化の会心の頃に生まれ、主に富山県の 5 箇所山地方の踊りに用いられた古代楽器です。キレイに並んだ 108 枚の木片は順次ぶつかり合い音を奏でます。この木片が一枚でもかかってしまうと音が鳴らなくなってしまう。障がいのある方がたの地域生活も、ご本人、ご家族、支援者、地域の方々・・・

皆が協力して初めて実現するもので、1 つでも欠けてしまっでは実現できないと思います。

～関わる全ての人たちで音を奏でたい～

そのような想いを込めて「ささら」という名前をつけました。

平成 15 年 4 月より支援費制度がはじまり、障がい者が事業所やサービスを選択する契約制度になりました。そんな中、私たちは「それまで自分たちで介助者を選んでいた重度障がい当事者にとって、事業所から派遣されてくる介助者では不安がある」という話を耳にしたのです。「自分に寄り添って介助をする介助者が必要だ」と。

制度が変わっても自分らしい生活がしたい。そのような想いの障がい当事者とそれまでその方たちに関わり、これからも同じようにサポートしていきたいと思う介助者、そして周りにいる協力者の方々によって、「ささら」は立ち上がりました。そして、新しい法制度に移行しても、その想いは変わりません。まだまだ歴史が浅く、手探りの部分が多々ありますが、共に障がいのある方たちのサポートをしていきたいと思っています。

ここでこの「ささら」がある、台東区橋場について学びましょう。北辺は隅田川になりこれを境に墨田区墨堤に接する町域南部は今吉柳通り接しこれを境に今戸に接します。台東区の西部に位置していて清川に接しています。

橋場の歴史は、『義経紀』、『源平盛衰記』に浮き橋を架けたと記載があり、それが地名の由来とされるそうです。また、1913 年（大正 2 年）まで隅田川には、もっとも古い渡しとして橋場の渡し（現在の橋場 2 丁目から墨田区墨堤通りを結ぶ）があったそうです。その後 1964 年（昭和 39 年）の住居表示変更で石浜町 1 丁目から 3 丁目の一部の東側と浅草橋場町 1 丁目から 3 丁目全域から新町名として橋場（はしば）と命名されたそうです。私は 25 年以上今戸に住んでいたことあるので未だに、そのあたりを通るとなつかしさが、こみ上げてきます。当時五つだった私は、池袋にあった「機能回復訓練所」母親に背負われバスに乗って行きました。その当時の路線バスは、「トロリーバス」は電気で走りますが、今走っている荒川線“都電”と同じで、上にケーブルが繋がっていました。掘割の駅を通ると橋があって、車掌さんがバスの屋根に繋がっている、ケーブルを抜きディーゼルエンジンだけでバスを走らせていたのを覚えています。

今はだんだんエコカーになってきて、その頃のトロリーバスとは全然違う考え方でしょうけど、前石原都知事が成し遂げた、ディーゼル車廃止の考え方を推奨したのは、環境にはよくなりました。



施設内のトイレは二カ所あり、画面左はスペースの広いもので、もう一つは一般的なサイズとなっています。

まちづくり新聞では初めまして。

自立生活センターたいとうの当事者スタッフをしております、高橋と申します。

簡単に私の自己紹介をさせていただきますと、私は生まれつき二分脊椎症の障がいを持ち、普段は車椅子やクラッチ杖を使用し、自立した生活をしております。

今回地域の皆様へ、私なりのバリアフリー情報をお届けさせていただきたいと思い、記事を書かせていただきます。

今回は電車移動の際に「**ここにエレベーターができたんだ！**」と個人的に驚いた時のことを皆様へ共有させていただきたいと思います。

その驚いた場所とは《銀座線浅草駅1番ホーム》にエレベーターが設置されたことです。

個人的に電車に乗る時に銀座線を利用することがよくあり、その際、毎回用事が終わりに戻ってくる際に「2番線ホームのみ」エレベーターが設置されていた為（※過去の話です）、毎回2番線ホーム到着の電車に乗り、帰っており「1番線ホームにもエレベーターができたら便利だな」と数年近く思い続けていたところ、2020年4月にエレベーターが1番線ホームに設置され、バリアフリー化されました！これは個人的には驚き…。といつとも、そのバリアフリー化に気付いたのが今年の7月のお話でした（苦笑）

地上へ上がるルートは1ルートしかありませんが、それでもバリアフリー化されて、ストレスなく銀座線浅草駅を利用できることになったのは車椅子ユーザーやベビーカーを利用される方々にとって、とても嬉しいことなのではないでしょうか。

皆様ご存じかと思いますが、浅草は人気観光スポットでもございます。

こういったバリアフリー化が進むことで、様々な多様性の方々が浅草へ来やすく、そして、安心して浅草を楽しむことができるでしょう。

物理的にバリアフリー化が難しいなどの事情を考慮し、我々車椅子ユーザーが理想とするバリアフリー化が発展している街へと進展していけるよう何かしらの形で活動をしていきたいと思っています。



地上からエレベーターで改札階に下り、改札を通過して右側奥に進むと1番線ホーム行きエレベーターがあります。

／ 最 後 に ！

今年 4 月から放送されている某連続テレビ小説の時代設定は、昭和 40～50 年代に多分、一流コックを目指してヒロインがいろいろ困難にぶつかり、秋ごろの最終回には目標を達成するまでのストーリーなのではないでしょうか？多分この新聞が皆様のお手に届くころには、そういう結末になると思われる、お馴染みの連続テレビ小説ですね。



沖縄そば

考え見ればその時代は、携帯電話もパソコンもない昭和の時代。そのドラマのヒロインは公衆電話や黒電話で話す場面が出てきます。私はダイヤル式の電話は、何の苦労もなく扱えました。ダイヤル式からプッシュホンとなり、スマートフォンとなりました。私は、似た操作のタブレットを触った事がありますが、私には操作しづらいものでした。いつでもどこでも、インターネットや電話などが使える機器として出来たものなら、手に障がいがある人が、介助者が居なくても気軽に使えるものが出てくれば良いと思っていますが、皆さんはどういう風にお思いでしょうか？

私の知人で今回新聞に出した、“ささら”に通っていた人が、都外の施設に入居したそうです。自宅で親御さんが介護するのが厳しくなり、身内の方があるところに相談をして決めたそうで、経過は順調に暮らしているとは聞いたのですが、しかしその人の事を思い浮かべると、生まれ育った地域を離れて、他県の施設で楽しく暮らしているか心配です。

話しはささらに戻りますがこの「ささら」にはもう一つ意味があります。

よく街で見かけるビルの、鉄骨階段の鉄骨の柱を支える部分を建築用語で、“ササラ”というそうです。人は一人で生きているつもりでも、どこかで知らない間に、他人（ひと）に支えられたり、また知らぬ間に誰かの支えになっていることだってあるのではないのでしょうか？ごく当たり前の日常生活においても、いろいろな場面で「ささら」支えがあるのではないのでしょうか。例えば、特別養護老人ホームや、障がい者の生活介護施設に通う利用者は、職員や、外部から訪れたボランティアなどの支えがあって、成り立っています。後は肉親や、自宅に来るヘルパーの支えがあるから生活を営んでいける。そして介護を職業としている人も、利用する人がいるから、その収入で生活をして行ける。ですがそんな支え合う日常を忘れて自我を抑えられず、他人や身内を傷つける事件が多く、本当に殺伐とした世の中です。人は誰だって自我や欲求はあるものです。そんな欲求を満たすために勝手なことをし、人に迷惑をかけることは決して許されない事です。

ただ、人生にはやり残した事や、後悔してもしきれない事がいっぱいあるでしょう。その事に対して振り返り、ダメだった点を反省するのは大事です。人間は強い所もあれば、弱点もみんな持っているのではないのでしょうか？人の弱点を責めたり罵倒する人間ほど、弱い人間だと私は思います。



さて今回は、CIL たいとうの事務居の高橋翔太郎さんに、「銀座線浅草駅」について書いて頂きました。今や当たり前となったホームドアやエレベーター設置の裏で先日、テレビ番

組でとある町の私鉄が通る線路に踏切があり、ほんの数時間しか上がってなくて、次々に電車が通って、踏切を渡っている途中に遮断機が下りかかるぎりぎりまで歩行者が渡り切った映像が放映されていました。高架線が出来ないにしても、なんらかの対策を打って、住民や多方面からくる人が安心して行きかうことが出来る街になって欲しいと思います。今はそういう踏切事故のほかに、毎日のように交通事故が多発しています。自動運転の自動車が、一般的に走り出す世の中になったとしても、なんらかの誤作動で悲惨な大惨事により尊い命が、奪われる事だってあるかも知れません。では他にそんな悲惨な、事故に遭わないようにする対策なんてあるのでしょうか？これはあくまでも私の夢の中の空想ですが、将来的に歩道は遊歩道のように、どこまで行っても歩道しかない。季節の移り変わりも、肌で感じる事が出来、ただ自家用車や、バス、タクシーなどを使うときは、所定の場所でアプリやコンピューターなどの機器で呼び出し、そういった専用ルートの入りで待っていればいい。バギーや車いす(電動・手動)、歩行者、自転車のがのんびり行き返ることが出来て、時には急ぐ人も他人に、迷惑が掛からないような、遊歩道が日本中に出来て、完全に交通事故が消える時代になれば何よりだと思いますが、皆さんはどうお考えになりますか？



**私の新聞にご賛同、応援して頂ける方はご寄付金 1,000 円(年間1回程度)を
長澤まで宜しくお願い致します。**

また、特定非営利活動法人自立生活センターたいとうの活動にご賛同いただける方、賛助会員としてご支援をお願いしております。

正会員	年会費	5,000円
賛助会員	年会費 個人会員一口	3,000円
団体会員	一口	10,000円